

景気動向調査 令和6年度・第1期（令和6年4月～令和6年6月）

調査概要

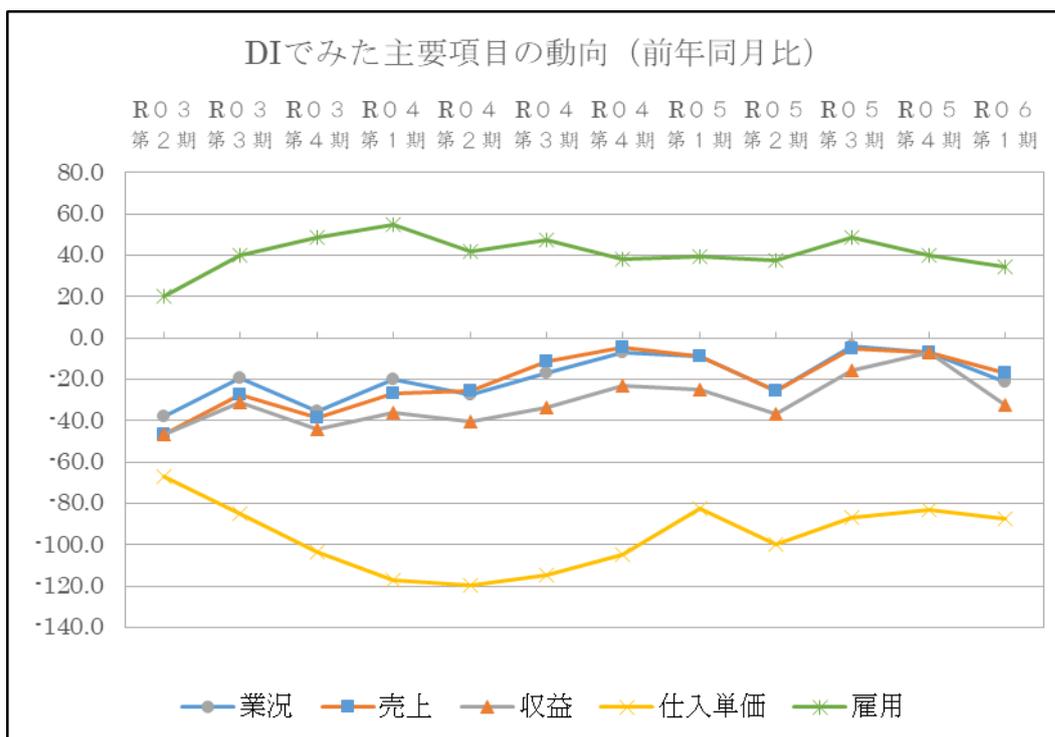
調査対象: 赤穂商工会議所管内 120社

回収: 93社 回収率: 77.5%

調査対象期間: 令和6年4月～令和6年6月(令和6年度・第1期)

DI値: 「良い+やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い+悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計DI

区分	R5第4期 (R6年1月～3月)	R6第1期 (R6年4月～6月)	先行き見通し (R6年7月～9月)
業況	△7.3	△21.5	△10.8
売上	△7.3	△17.2	△15.1
収益	△7.3	△32.3	△18.3
仕入単価	△82.9	△87.1	△66.7
雇用	40.2	34.4	33.3

※雇用DIについては、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査(R5年4期)に比べ14.2ポイント下降の△21.5となった。売上DIは9.9ポイント下降の△17.2、収益DIは25.0ポイント下降の△32.3となり、また仕入単価は4.2ポイント下降で△87.1、雇用DIは5.8ポイント下降の34.4となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果(R6年1期)に比べ10.7ポイント上昇の△10.8で、売上DIは2.1ポイント上昇の△15.1、収益DIは14.0ポイント上昇の△18.3、仕入単価DIは20.4ポイント上昇の△66.7、雇用DIは1.1ポイント下降の33.3となっている。

売上DI

区分	R5 第1期	R5 第2期	R5 第3期	R5 第4期	R6 第1期	先行き 見通しDI	先行き 期待感
全体	△8.7	△25.8	△4.9	△7.3	△17.2	△15.1	2.1
建設業	△8.3	△46.7	△75.0	△33.3	△14.3	△21.4	△7.1
製造業	△10.7	△7.4	13.6	0.0	△8.0	8.0	16.0
卸売業	△20.0	△50.0	10.0	20.0	△9.1	9.1	18.2
小売業	△14.8	△28.6	7.7	△36.4	△29.6	△44.4	△14.8
サービス業	0.0	△22.2	0.0	40.0	10.0	△20.0	△30.0
不動産・ 運輸業	40.0	0.0	△25.0	0.0	△66.7	0.0	66.7

○産業別の売上DIは前回調査(令和5年4期)と比較すると、建設業が△14.3(+19.0ポイント)、小売業が△29.6(+6.8ポイント)で改善、製造業が△8.0(△8.0ポイント)、卸売業が△9.1(△29.1ポイント)、サービス業は10.0(△30.0ポイント)、不動産・運輸業が△66.7(△66.7ポイント)で悪化となった。

また、全体の先行き見通しDIは今回調査結果(R6年1期)と比較し△15.1(+2.1ポイント)となっている。

経営上の問題点 (上位3項目)

区分	R5 第1期	R5 第2期	R5 第3期	R5 第4期	R6 第1期	前回調査比
売上の停滞・減少	18.5	29.0	34.1	29.3	26.9	△2.4
人手不足	21.7	20.4	25.6	24.4	22.6	△1.8
原材料高	21.7	22.6	14.6	11.0	16.1	5.2

○事業所からのコメント

小売業：高齢化・空き家問題が深刻になっている

<参考>

有効求人倍率

区分	R6.5月	R6.4月	R6.3月
一般(常用)	0.95	0.88	0.83
パート(常用)	0.82	0.95	0.95
一般+パート(全合計)	0.89	0.92	0.89

